

南長崎二丁目町会「地域ドキュメンタリー：映像とパンフレットで語り継ぐ伝統文化～椎名町 今・昔～」

団体名称	南長崎二丁目町会
事業名	地域ドキュメンタリー：映像とパンフレットで語り継ぐ伝統文化～椎名町 今・昔～
助成対象事業区分	分野別モデル事業(伝統文化事業)
事業実施期間	平成21年9月20日～平成22年3月27日

町会・自治会の概要

団体名称	南長崎二丁目町会	設立年月日	昭和7年4月1日
構成団体数	1団体 (平成21年10月末現在)	構成世帯数	820世帯 (平成20年3月末現在)

【事業の概要】

- ・トキワ荘に関して、生きた証言や現存施設等を取材した映像「地域ドキュメンタリー～椎名町 今・昔～」を制作した。
- ・「区民ひろば富士見台祭典」において、「ビデオ上映(只今制作中!)」としてプレ上映会を開催した。
- ・地域ドキュメンタリー取材等で集められた情報から「啓発パンフレット」を作成した。
- ・「大型スクリーンで見るビデオ上映会 地域ドキュメンタリー～椎名町 今・昔～」を実施した。
- ・ビデオ上映会にて、パンフレットを配布。また、地域の3町会に1,000部、育成委員会に1,000部、富士見台小学校に500部配布した。
- ・区民ひろば富士見台にはパンフレットを常備し、随時配布していく。今後も機会があるごとに上映会を行い、地域への普及を図る。

当町会の前身は、この地域の防火や防犯に寄与する親睦団体であった。区画整理等に伴い、名称等の変遷があり、現在は南長崎二丁目町会の名で活動を行っている。

南長崎二丁目町会の基本理念は、「地域内における人と人との緩やかなつながりづくり」である。このコンセプトの下、防犯のための声かけ、資源回収、イベント開催等を実施している。南長崎二丁目町会は、豊島区区民ひろば富士見台と連携し地域活性を図るため、設立前から地域の課題について約1年半かけて話し合いを行っていた。豊島区からできるだけ早く運営協議会を立ち上げて欲しいという要望に応じて、平成19年度に豊島区区民ひ

ろば富士見台運営協議会が設立された。南長崎二丁目町会は区民ひろばとの連携を通じて子ども向けの児童館、高齢者向けのことぶきの家を一体化し、世代間交流や地域の課題解決の場にしていくことや、区民ひろばを単にイベントを行う交流施設とするのではなく、人とのつながりをどのように作っていくか考え、有効活用することを目指している。

助成を活用する取り組みに至った背景、問題意識等

地域住民は、町会費等は払っていても、地域活動に無関心な人が比較的多く見受けられた。そのため役員会だよりを発行しており、月 2 回の会合内容、地域の状況等を地域住民にお知らせしている。役員会だよりを発行することにより、町会費がより集めやすくなり、募金（赤十字、赤い羽根、歳末たすけあい等）にも協力度がよくなる等の効果がみられた。地道な活動を続けることによって、希薄化している現代の人間関係をつなぎとめられるのではないかと考えている。

また町づくりや町会活動というのは、NPO 等と比較すると目的があいまいであり、また自由度が少ないなど個人のやりたいことがなかなかできないため、地域活動に意欲のある 40・50 代の方は NPO に流れてしまう傾向にある。そんな中、町会の活動に目を向けてもらうためには、地域を通して人とのつながりを作ることが大切であり、そういった取組が安心・安全な町づくりに繋がっていくのではないかと考えるのは、事業実施前より持ち続けていた。しかしながら、町会の活動として、飲み会やレクレーションを行うだけでは、多様な価値観を持っている人間を束ねることが難しく、その場限りの交流で終わってしまう。そのため、地域における長期的な人間関係の形成には必ずしも有効でないと感じていた。そこで地域活性化、地域振興において文化・都市整備等の取組を推進することで、地域に愛着を持たせるような枠組みをつくらないと、町会や地域の繁栄は難しいのではないかという思いがあった。

助成を活用する取組に至った直接的なきっかけは、平成 19 年度に、豊島区町会連合会が本助成制度により、ホームページを作成したことが挙げられる。その結果を受け、上記の問題解決のためにも町会単独でも何か取り組めないかと考え、次年度より申請を行うことにした。結果、平成 20 年度には、近辺の地域と共に防災マップを作成しようと「地域の底力再生事業助成」を活用し、防災に関する取組として地域マップづくりを実施した。

平成 21 年度には区民ひろばと連携をして「地域ドキュメンタリー：映像とパンフレットで語り継ぐ伝統文化～椎名町 今・昔～」について取組んだ。その背景には、地域の文化・歴史を若い世代に継承したいという思いと、新しくこの地域に転居してきた人等に南長崎二丁目に愛着を持ってもらいたいという思いがある。

事業を実施する上での問題点、創意工夫を行ったところ

パンフレットを作成する上で工夫した点は、デザインである。今の若者はある程度デザインのしっかりしたものでないと見てくれない。若者にも地域の文化を知ってもらうため

に、分かりやすいデザインのものを作成した。近隣の学校にもパンフレットを配布するなど、学校の職業実習の一環として子どもたちが見学に行くなどしている。

パンフレットに掲載する事例の取材は、区民ひろば富士見台のスタッフが実施した。区民ひろばはかねてより町内の人々を密接なかかわりを持ち続けていたため、取材はスムーズに実施することができた。区民ひろばとの連携が、本事業成功のカギの1つであったといえる。

■本事業で作成された地域ドキュメンタリー パンフレット■



事業の取り組み、地域への波及効果

町会の総会で取組について発表した際、大変反響があった。自分の住む地域にこういったものづくりをしている人がいるということを初めて知ったという声が多くあった。

本事業に協力してくださった職人さんのPRにも繋がっており、中には他地域との交流をはじめた職人さんもいる。地域の職人さんは、町をつくる人であって、そこには支える人が必要になる。地域が支える人になればよいと考える。

東京都による助成が役立った点

事業を行う上で金銭的なサポートを得られたことは、大変有効だった。特に今回作成したパンフレットの印刷にはお金がかかるため、この事業は助成なしでは実現し得なかったと考えている。

また、東京都が地域活動のために考えた補助金を使って実際に活動することで、地域活動の一環として行っている事業であるというPRができ、大変役立っている。地域の人も目的を持った事業を行っているという納得してくれるため、大変ありがたかった。

今後の助成事業の活用

助成を受けている間だけで取組が終わっては意味がないので、定期的に上映会を行いながら、一つのことをより掘り下げていきたいと考えている。地域に暮らす職人さんをはじめ様々な人の苦労話と地域との馴染みを発表する場があれば、地域の方にも親しみを持ってもらえるのではないかという夢を持っている。

地域活動としては、集客だけで効果を測るような一時的なイベントのみを実施するよりも、人と人との緩やかな繋がりを作ることを目的として、目的達成に向けての活動を重視している。そのため、子ども向けのイベントでも、高齢者にも参加していただけるような工夫、高齢者向けのイベントでも、子どもも参加できるような工夫を施している。なお、様々な行事と日程が重ならないようスケジュール調整も行っている。イベントが終わった後、すぐに帰宅する人も多いが、そういった参加者をどのように繋ぎとめ、今後の地域交流への参加や人間関係の構築を促すかは今後の課題である。

人間関係の希薄化を埋め、個と個のバランス感覚をどうすれば地域の中に作っていけるのかを日々試行錯誤している。「地域は永続する」との考えを念頭に入れながら、文化、地域活動を通した町づくりをすることで、町会の基本理念である「人と人との緩やかなつながりづくり」を実現し、よりよい地域をつくっていくことができればと考える。